

# いちのせき

広報

平成20年 8.15 No.70

## 主な内容

- 岩手・宮城内陸地震 ..... P 2～3
- 公共交通アンケート結果 ..... P 4～5
- 暮らしの情報 ..... P 8～11



ふるさとを  
「なじよにかすつぺ」と  
仕掛けた「岩手の桑茶」

「いわいの里」  
ふるさとづくり研究会  
こういち  
**佐藤公一**さん  
金融機関勤務を経て3年前  
大東町にUターン。水稲100  
オール栽培の傍ら、同会副会  
長兼事務局長として桑食品  
の製品化などに奔走。53歳



かつて養蚕が盛んだった東磐井地方。養蚕農家が減る一方で、耕作放棄された桑畑が見受けられることが知られ、各方面で研究が進められているのが、佐藤公一さんです。

「メンバーを募るために、『この地域をなじよにかすつぺ』と書いたチラシを地域に回しました」と佐藤さん。県南の自然豊かな里山の恵み、地域資源を有効活用し、生きがいのあるふるさと作りを目指そうとの呼びかけに賛同の声が上がり、19年4月、「いわいの里ふるさとづくり研究会（金秀弥会長、会員33人）が設立されました。

桑に着目した理由は「地域にふんだんにあるのに利用されていない資源。先進地を視察し、これなら自分たちでもできると思ったから」。大東町内の農家が摘み取った桑葉を原料に同年9月、桑茶の試作品が完成。市の農業祭、商工祭などのイベントに参加し試飲会を行う過程で市内・県内外の関係者と知り合い、クッキー、こんにゃく、まんじゅうなど桑を原料とした各種の加工品が生まれる端緒になりました。

収穫、加工、物産展と飛び回る佐藤さんですが「夢があるから疲れない」。生産農家の声、消費者の声の両方に耳を傾ける、産業おこしの仕掛け人です。